

## ウクライナ： 戦時下の左派の人々

TRUTHOUT  
Mike Ludwig  
March 5, 2022

### War Is Forcing Ukrainian Leftists to Make Difficult Decisions About Violence

<https://truthout.org/articles/war-is-forcing-ukrainian-leftists-to-make-difficult-decisions-about-violence/>

#### 名誉ある孤立

2月24日以来、キエフにあるシェリアジェンコの5階建ての家では、毎日サイレンと爆発音が響いている。

シェリアジェンコは「ウクライナ平和主義運動」の事務局長である。彼は戦争状態のこの国で、孤立しながらも断固として平和を求める声を上げている。

彼は政府の命令に逆らい、武器を持つことを拒否した。ロシア軍の進攻に抵抗する隣人たちはモロトフ・カクテルを作っているけれども、彼はその作業に加わることを拒否した。その結果「無数の憎しみの視線」を受け続けてきている。

アメリカの友人が尋ねた。「ウクライナの活動家を支援するために米国の人々ができることはなにか？」

彼は友人にメールした。「平和のためにとれる暴力的な方法などはない。まずはあなたの友人たちに暴力の真実を伝えることだ」

#### もう一人の左派活動家イリヤの道

キエフ近郊のどこかでは、イリヤとその仲間たちが武器を取り、戦闘訓練をしている。ロシア軍に対抗するためだ。

イリヤは、隣国（ロシア）の政治的抑圧からこの地に逃れてきた無政府主義者である。彼はロシアの侵攻に抵抗することを決意し、地下に潜った。

ウクライナばかりではない。世界中から集まったアナキスト、民主社会主義者、反ファシストなどの左翼主義者と一緒に、イリヤは「領土防衛」部隊のひとつに参加した。それはウクライナ軍の指揮下で動く自主的な民兵組織だ。

相互援助グループや横断的なボランティア連合体からの補給を受けて、領土防衛機構の中に独自の「国際旅団」を組織し、物資を調達している。

イリヤは言う。「敵が自分を攻撃しているとき、反戦平和主義の立場をとることは非常に困難だ。自分の身を守る必要があるからだ」

## **シェリアジェンコとイリヤの道は未来でつながる**

かくしてシェリアジェンコとイリヤは異なる道を歩いているように見える。それはウクライナの活動家や進歩的な社会運動が直面している、極限的な選択肢の表現である。

注目すべきことは、自己防衛の手段と政治における暴力の役割に関する考えの違いが、両者を互いに敵対させるのではなく、むしろ補完するような関係で結びついていることだ。そしてポジティブな闘争目標に向かって共同の歩調を取っていることである。

イリヤと彼の同志たちは、ウクライナ軍と歩調を合わせているが、ウクライナ国家に幻想を抱いているわけではない。「そこには明らかに多くの欠点と腐ったシステムがある」と彼はいう。

いっぽう、ウクライナ、ロシア、東ウクライナの親ロシア分離主義者は2014年以來、低レベルの戦争を続けている。彼らはプーチン流の残忍な権威主義を押し付けかねない。

その中でも「ロシア帝国主義の侵略」が最大の共通の脅威だとイリヤは考えている。

ロシアでは現在、デモ隊が警察の残忍な弾圧に逆らい、長期の実刑を覚悟して戦争に抗議している。ウクライナは民主主義が十分に機能する国家とは言えないが、この国の問題がロシアの抑圧的なやり方で解決されることはないだろう。

イリヤは言った。

「ロシアでは広範な反戦運動が起こっており、私はそれを歓迎します。ウクライナではほとんどの進歩的、社会的、左翼的、自由主義的運動は、ロシアの侵略に対して反対する立場で一致しています。しかしそれはゼレンスキー政府と連帯することではありません」

### **シェリアチェンコの考える「平和」**

シェリアジェンコは「この戦争の仕掛け人は、ウクライナとロシア双方の右翼民族主義者だ」と非難している。この戦争はこれまで何百、何千という市民の命を奪ってきた。それは言い訳のできない事実だ。

シェリアジェンコと仲間の平和活動家は、これまで親口派の分離主義者と争うことに反対してきた。このためウクライナ極右からは親口派とみなされた。極右のウェブサイトには、裏切り者として「ブラックリスト」に登録された。その結果、街なかでネオナチに襲撃されるところまで至った。

「しかし」と彼は言う。

「ファシスト集団や極右ウルトラナショナリストが台頭したのは、今に始まったことではない。それは2014年のマイダン蜂起以来のことです。

その時、連中はウクライナの親ロシア派大統領を引きずり下ろした。しかし、だとしても、それが今回の流血の事態の理由にされるにはあたりません。プーチンの主張は言い訳にもなっていません。

現在の危機は、さまざまな間違っただけの行いが長い時間をかけて合流し、蓄積した結果置きたものです。さらにそれに誤った考えが乗っかりエスカレートしています。

それが『我々天使は、何をしてもいい』『彼ら悪魔は、その醜さに苦しめばいい』といった自己中心主義です。その論理が核兵器に対する考えにまで及べば、「核のアポカリプス」の可能性も否定できなくなります。

真実こそが大事です。真実は、すべての勢力が冷静に考える上での助けとなります。そして和平交渉を軌道に乗せるために役立つはず  
です」

## 活動家にはやることがたくさんある

多くの民間人がウクライナ軍に志願しているが、戦争が2週目に入ると、ロシア軍と戦う以外にも活動家にはやることがたくさんある。

イリアは言う。「市民ボランティア」のなすべきことは、

- \* 戦火から逃れる家族を支援する。
- \* 世界中のメディアに情報を発信する
- \* レジスタンス兵の家族を支援する
- \* さまざまなつてを頼って寄付や物資を集める
- \* 前線から戻った人たちのアフターケア

などだ。

労働組合は資源を整理し、戦争で荒廃したウクライナ東部からポーランドなどの西側近隣諸国に逃れる難民を支援している。

ボランティアには、さまざまな政治的背景を持つ人々が参加している。イリヤのようなアナキストにとっては、抵抗活動に参加することは、政治や社会の発展に関わるための手段ともなっている。それは現在だけでなく、戦争が終わった後にも有益な経験となるだろう。

草の根の「自衛組織」も、相互扶助と自律的な抵抗を行う上で役立つ。それは左派活動家が生活の場を確保し生き延びていく手段として各地で生まれている。

イリヤは言った。「私たちの部隊の全員がアナキストであるというわけではありません。重要なことは、多くの人々が自発的に組織され、互いに助け合い、近所や町や村を守り、火炎瓶で占領軍に立ち向かうことです」

### 「戦わない」という選択

一方、シエリアジェンコと散在する平和活動家たちは、非暴力による市民的不服従を含む戦術で、強制的な徴兵制に反対し続けている。

いまキエフでは、18歳から60歳までの男性は「移動の自由を禁じられ」、軍関係者の許可がなければホテルの部屋を借りることさえできない。

シエリアジェンコは、兵役拒否の屈辱的な代替案と官僚的なお役所仕事、宗教者の良心的兵役拒否さえ妨げていると語っている。

彼はこう付け加えた。

米国の活動家にお願いしたいのは、人種、性別、年齢に関係なく、すべての民間人を紛争地域から避難させるよう呼びかけて欲しいということです。

もう一つ、武器をウクライナに持ち込んで、紛争をエスカレートさせるような援助は止めてほしい。そのような団体に寄付すべきではありません。

皆さんに覚えておいてほしいのです。米国と米国が主導する NATO 連合は、すでに軍に多くの武器を供給しています。そしてそれとな

く、ウクライナの NATO 加盟の可能性を匂わせています。**まさにそれこそが軍事侵攻の最も決定的な口実となったのです。**

最後にシェリアジェンコさんはこう語った。

「だいじなのは教育です。平和な文化の発展や市民への平和教育の強化なくして、真の平和は実現しません。そのことを分かって欲しいのです」

.....

シェリアジェンコさんは、AALA ニューズの 100 号に掲載された ウクライナ平和主義運動「ウクライナからの平和メッセージ」 で語った人です。



シェリアジェンコさんは最近、自身のフェイスブックで次のように書いています

ユーリイ・シェリアジェンコ

Yurii Sheliashenko

<https://www.facebook.com/ludstvo>

3月7日 21:29 -

いまロシアが砲撃するキエフで話しています。

私はまず暴力のない世界秩序が未来の地球においてどのような見通しを持つのか語りしたいと思います。

そこには軍隊も国境もありません。だからロシアとウクライナの緊張、東と西の緊張ありません。それらが誘起する核の脅威もありません。

世界の市民社会は、ロシアとウクライナに対して、持続可能な平和にむけた誠実な交渉を呼びかけるべきです。

バイデン大統領は、国際秩序における米国の指導権をもとめています。それは西側民主主義国の軍事同盟で裏打ちされています。

彼はウクライナを支援し、ロシアにウクライナへの攻撃の代償を支払うよう要求し、西側への忠誠を誓うようもめています。

ゼレンスキー大統領は、ウクライナを EU、NATO 圏に組み込もうとしています。そしてドンバスとクリミアの主権を奪い返し、ロシアとの繋がりを絶ち、帝国主義的干渉と戦争犯罪に対する懲罰を追究しようとしています。

プーチン大統領は、世界の多極化を推進しようと考えています。また旧ソ連地域におけるロシアの安全保障問題に重大な関心を抱いています。そのためにウクライナの非軍事化と非ナチ化をもめています。

さらにプーチンはウクライナに、どの軍事同盟にも入らない非同盟の路線、核兵器の非保有、クリミアに対するロシアの主権承認、ドネツク・ルハンスク人民共和国の独立などを迫っています。

また、ウクライナにおけるロシア人と文化の差別廃止、反ロシア極右勢力の処罰などをもめています。

おのおのの立場には深い矛盾があります。それは地球上のすべての人の利益、価値、ニーズに基づいて、原理・原則を踏まえた交渉の中で解決されるべきものです。

和平プロセスを促進するために、そしてウクライナの危機を平和的に解決するために、私は、専門家からなる独立した公的委員会の設立を提案するものです。